

日 時	令和6年5月30日（木）午後7時00分～午後8時30分
場 所	北郷まちづくり会館
出席者	39名

Q：質問 A：回答

1. 勝山インターでの交通取締りについて

Q：中部縦貫自動車道出口付近で、一旦停止を守らない車が警察に違反でつかまっている。車が多いと停止の標識や路面表示が見えにくいのではないかと。せっかく勝山に来てくれたのに、勝山のイメージが悪くなる。

A：表示を見えやすくしたり、観光ホームページで交通ルールの遵守を呼びかけるなどしたい。

2. 岩屋川の放水口について

Q：岩屋川ダムの放水口がつまっていて、上から水が溢れている状態である。昨年の7月豪雨時は幸い岩屋川の被害は少なかったが、今後のこともあるので調整できないか。

A：岩屋川の砂防ダムは、貯水のためのダムではなく、土砂をせき止めていっぱいになった状態で、流れを緩やかにするためのものであるそう。ただし、国交省が、その土砂を取り除くことも1つの有効な手段として最近を検討を始めているようである。

3. 勝山高校への進学率について

Q：今年、市内中学校から勝山高校に入学した生徒数が半分以上だと聞いた。新中学校ができることが決まっても、勝山高校に入りたいと思う子が増えなかったのはなぜか？

A：私立高校の無償化の影響は大きい。勝山の子どもたちが、進学先を勝山高校に限らず、沢山の選択肢の中から決定することは良いことだと思う。中学校を統合するから勝山高校へ進学する子どもたちが減っているというわけではないと思う。高校の魅力向上は自分たちの大事な仕事だという認識は持っている。

4. 小学校の再編について

Q：小学校の再編について、今後はどのように考えているか？

A：小学校については地域との結びつきが非常に強いため、地域の意向を尊重して対応したい。平成30年の小中学校のあり方の検討委員会の中で、中学校の統合は進めるべきだという答申があったので、中学校の統合は進めてきた。小学校の再編については、地域の皆さんがご意見を市の方へご提案いただきたい。

5. 新中学校の建設地について

Q：新中学校の建設はベターな選択ではないと思っている。勝山高校が10年、15年後にある確証がないのに、特別教室がないというのはあり得ない。市長の責任を問われる。

A：冒頭にも言ったが、新中学校のことには絶対の正解はないと思っている。新中学校に特別教室はないとおっしゃったが、実は勝山高校は大規模リノベーションして、中学校の特別教室を準備している。ジオアリーナは子どもたちを含めた市民のための体育館なのでフル活用したい。よりよい新中学校のために、教育関係OBの皆さんのご支援・ご協力をお願いしたい。

6. 市道の草刈について

Q：市道の路肩の草刈りを市はなぜしないのか。県は年に数回やっているし、集落がお金をもらって請け負ってやっているところもある。勝山市は人も金も出さない。

A：一度持ち帰って確認する。

7. 夕方の放送について

Q：夕方の童謡とサイレンは、童謡だけにしてほしい。農作業を終えるのに童謡は癒されるが、サイレンになるとまた働かないといけなような気分になる。

A：童謡とサイレンの件は、どこから鳴っているのか確認する。

8. 中学校の跡地利用について

Q：中学校の跡地はどう考えているのか？

A：現中学校の跡地については、現在議論を進めている。中学校は借地が多いので、そういった課題もある。現在は考え方をまとめている段階なので、今しばらく待ってほしい。ただ、ずっと放置するつもりはない。必ず方向性を定めて進めていきたいと思っている。皆さんのお知恵もいただきたい。

9. こども会館について

Q：こども会館は滑り台をつけて、下を直すだけではなかったのか。子どもが減っている中で、今回のこども会館は無駄だと思うが、どれだけの改修費用を見込んでいるのか。

A：こども会館のイメージ図を見て滑り台の印象を持っているのだと思うが、滑り台にこだわっているのではなく、元々のコンセプトは子どもに関する様々な機能の集約である。児童センターのあり方にも関係してくる。財源については福井県の屋内遊戯施設の補助1億円の活用を考えている。また中央公園が建設から45年経過しており、現在のニーズに合わせたものにしたい。子どもは減るが、子どものための施設を集約することは少子化の中で大事だと思っている。

10. スクールバスについて

Q：中学校のスクールバスと言っているものは、公共交通だと思うがどうか。

A：スクールバスは、大人も子どもも利用できるものを考えている。文科省でも認められているスクールバスである。

11. 雇用について

Q：働く場所として、前田工織のようないい企業が勝山にできるようにお願いしたい。

A：働く場所があるのに、働く人が不足している状況が続いている。また子どもたちとやりたい仕事とのマッチングが難しくなっている。前田工織が来てくれたらうれしいがすぐに誘致しますとは言えない。他の自治体の取組も見ていきたい。

12. フルデマンドバスについて (1)

Q：フルデマンドバスのエリアが拡大するが、運転手やバスの確保ができるのか？

A：市内の3事業者と話を重ねている。現在、3年後のドライバー確保のためにも、行政支援は必要だと考えている。

13. フルデマンドバスについて (2)

Q：フルデマンドバスについて、自分たちがいきたい場所にバスで向かうときに、他の地区を経由していったりして時間がかかることになるのか？

A：オペレーションはAIを使用しながら複雑にできており、通り道に寄り道をすることはあるが、一定の時間内に行けるようにオペレーションされている。利用場所や利用時間帯によって増便や減便の調整ができ、ドライバーの確保にもつながっていく。遠回りになるようなシステムではない。